

事業名：6 魚病対策事業

期間：H18 年度～

予算額：H30 年度 2,638 千円（うち国庫 721 千円）

担当：養殖・漁場環境室（西田 智亮）

目的：

養殖魚の魚病による漁業被害低減のために予防対策、魚病検査、魚病の蔓延防止を行うことで養殖生産の安定化を図る。

## 成果の要約

### 1 事業内容

#### (1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議へ参加し、魚病の防疫に関する情報収集を行う。

#### (2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

魚病の検査や、養殖場の巡回を行い、適正な養殖を推進し、食の安全を守るとともに、病気の蔓延などを防止する。

#### (3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

県内で問題となっている疾病について調査、研究を行い、蔓延状況を把握や対策を講じる。

#### (4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

新日鉄住金エンジニアリング株式会社が研究代表機関となって、農林水産省の補助事業「[知]の集積と活用」の場による研究開発モデル事業に「大規模沖合養殖システム実用化研究」を提案するために組成した産学官連携のコンソーシアムに弓ヶ浜水産株式会社、鳥取環境大学、米子工業高等専門学校などとともに参画した。提案した「大規模沖合養殖システム実用化研究」は採択され、当センターはコンソーシアムのメンバーと共同研究契約を締結した。

## 2 結果の概要

#### (1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病の防疫に関する情報収集のため、会議に参加した。参加した会議を表1に示した。

表1 平成30年度参加会議

日付	会議名
6月13日、14日	全国養鱈技術協議会魚病対策研究部会
11月7日	西部日本海ブロック魚病対策協議会
11月21日、22日	近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会

11月22日	魚類防疫士連絡協議会
12月19日、20日	魚病症例研究会、魚病部会
3月1日	全国養殖衛生管理推進会議

#### (2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

平成30年度の巡回件数は44回行った。魚病対応が最も多く29件、巡回指導が次に多く6件であった。魚病診断件数は22件であった（表2）。

近年は新たなサケ・マス養殖業者の参入などがあり、サケ・マスの生産量の増大に伴い、サケ・マスの魚病診断件数が増加している。今後はこれまでに見られなかったサケ・マスの疾病が発生することも考えられる。

#### (3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

内水面ではイワナ、ニジマスでせつそう病が発生した。フロルフェニコールの投与により、対処した。

海面ではマサバとウマツラハギにおいて、アミルウージニウム症が発生した。換水率を上げ、銅ウールを使用して対処した。昨年も本疾病が発生しており、来年も発生する可能性がある。そのため、本疾病が発生する7～9月は換水率をあげるなどの対策を事前にとるように指導。

#### (4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

2018年度は、定例会等に延べ9回出席するなどして、研究の進行にかかる情報交換等を行った。

## 成果の活用

魚病被害の軽減及び蔓延防止を図った。

表2 平成30年度疾病診断状況

内水面			
区分	魚種	病名	診断件数 合計
養殖	イワナ	細菌性鰓病	1
		せつそう病	1
	ニジマス ギンザケ	せつそう病	1
		ミズカビ病	2
		細菌性鰓病	2
天然	コノシロ	不明	1
	ニシキゴイ	不明(KHV陰性)	2
民家池	マゴイ	不明	1
	ニシキゴイ	不明	1
			12
海面			
区分	魚種	病名	診断件数 合計
養殖	ウマツラハギ マサバ	アミルウージニウム症	4
		アミルウージニウム症	3
		αレンサ球菌症	2
		不明	1
			10